

July 31, 2019

【前日の為替概況】ドル円、米中通商協議への警戒感や低調な米6月インフレ率で108.45円へ

30日のニューヨーク外国為替市場でドル円は4営業日ぶりに反落。終値は108.61円と前営業日NY終値(108.78円)と比べて17銭程度のドル安水準だった。米中貿易協議をめぐり、トランプ米大統領が中国をけん制する発言を行ったことで、米中貿易交渉の先行き不透明感が高まりリスク回避的な円買い・ドル売りが先行。6月米PCEコアデフレーターが前年比で予想を下回ったことも嫌気されて、一時108.45円と日通し安値を付けた。

7月米消費者信頼感指数が135.7と予想の125.0を上回ったこともドル買い戻しを促し、一時108.70円付近まで持ち直す場面があった。

なお、トランプ米大統領は「我々は中国と協議しているが、彼らはいつも最終的に自分達の利益のために取引を変更する」「中国との問題は、彼らが約束を果たさないこと」「私が選挙に勝てば、中国は今交渉しているものよりもさらに厳しいものになるだろう」などと述べた。

ユーロドルは小幅ながら続伸。終値は1.1155ドルと前営業日NY終値(1.1145ドル)と比べて0.0010ドル程度のユーロ高水準だった。欧州市場では一時1.1132ドルと日通し安値を付けたものの、前日の安値1.1113ドルが目先サポートとして意識されると買い戻しが優勢に。オセアニア通貨や資源国通貨に対してユーロ高が進んだ影響も受けて、3時過ぎに一時1.1161ドルと日通し高値を付けた。

ユーロ円は小反落。終値は121.15円と前日NY終値(121.21円)と比べて6銭程度のユーロ安水準。欧州株相場の下落に伴う円買い・ユーロ売りが入ると一時120.88円と日通し安値を付けたものの、前日の安値120.74円がサポートとして働くことと下げ渋った。ユーロクロスやユーロドルの上昇も相場の下支え要因となり、1時30分過ぎには121.19円付近まで下げ幅を縮めた。

ポンドドルはアジア時間に一時1.2119ドルと2017年3月以来約2年4か月ぶりの安値を付けたものの、海外時間に限れば1.21ドル台半ばから後半でもみ合いに終始した。英国の欧州連合(EU)離脱を巡り、ジョンソン新政権の強硬姿勢から「合意なき離脱」への警戒感が高まっているものの、明日の米連邦公開市場委員会(FOMC)や8月1日の英中銀金融政策委員会(MPC)を前に徐々に値動きが鈍った。

【本日の東京為替見通し】ドル円、月末、FOMCと米中通商協議の結果待ちで動意薄か

本日の東京市場のドル円は、月末で動きづらい中、米連邦公開市場委員会(FOMC)や米中通商協議の結果待ちで動意に乏しい展開が予想される。

7月中国製造業購買担当者景気指数(PMI)は49.6と予想されており、米中貿易戦争休戦前6月の49.4からの改善が見込まれている。6月よりも悪化していた場合は、中国経済への警戒感が高まることで、リスク回避の円買い要因となる。

4-6月期豪消費者物価指数(CPI)は、前期比+0.5%、前年同期比+1.5%と予想されており、前期の±0.0%、+1.3%からの上昇が見込まれている。もし、前期並みだった場合は、豪準備銀行(RBA)の追加利下げ観測が高まることで、豪ドル売り・円買い要因となる。

米連邦公開市場委員会(FOMC)では0.25%の予防的利下げが確実視されている。昨日時点での利下げ確率は、0.25%が82%、0.50%が18%となっている。

リスクシナリオは、パウエルFRB議長がトランプ米大統領による大幅利下げ圧力に屈して、FOMCメンバーを説得して0.50%の利下げに踏み切った場合となる。

FOMCで0.50%の利下げが決定された場合、ドル円は年初来安値に向けた下落トレンドとなり、先日報じられた年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)(※2018年度末運用資産159兆円)が、外国債券(27.8兆円)のヘッジ(円買い)に乗り出す可能性が高まり、他の機関投資家も同様のヘッジ取引に乗り出す可能性が高まる。

8月1日は新月(スーパーブラックムーン)となり、アストロロジーの観点からは、「新月のドル売り」となり、さらに、1859年以來の強力な太陽嵐の襲来が予想されていることで要警戒か。

12回目となる米中閣僚級通商協議では、これまで同様に物別れに終わる可能性が警戒されており、トランプ米大統領は昨日中国をけん制する発言をしていることで、為替操作への言及に要警戒となる。

市場の関心は、明日からワシントンで開催予定の日米閣僚級通商協議や2日に発表される米7月雇用統計に移ることになる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 14:00 ◇ 6月新設住宅着工戸数（予想：前年比▲3.4%）
- 14:00 ◇ 7月消費動向調査（消費者態度指数 一般世帯、予想：38.4）
- 19:00 ◇ 外国為替平衡操作の実施状況（介入実績）

<海外>

- 08:01 ◇ 7月英消費者信頼感指数（Gfk 調査、予想：▲13）
- 10:00 ◇ 7月 NBNZ 企業信頼感
- 10:00 ◎ 7月中国製造業購買担当者景気指数（PMI、予想：49.6）
- 10:30 ◎ 4-6月期豪消費者物価指数（CPI、予想：前期比0.5%/前年同期比1.5%）
- 15:00 ◎ 6月独小売売上高指数（予想：前月比0.5%/前年比横ばい）
- 15:00 ◇ 7月英ネーションワイド住宅価格指数（予想：前月比0.2%）
- 15:45 ◇ 7月仏消費者物価指数（CPI）速報値（予想：前月比▲0.3%/前年比1.1%）
- 16:00 ◇ 6月トルコ貿易収支（予想：32億ドルの赤字）
- 16:55 ◎ 7月独雇用統計（予想：失業率5.0%/失業者数変化2000人）
- 17:30 ◎ 4-6月期香港域内総生産（GDP、予想：前期比0.9%）
- 18:00 ◎ 6月ユーロ圏失業率（予想：7.5%）
- 18:00 ☆ 4-6月期ユーロ圏 GDP 速報値（予想：前期比0.2%/前年比1.0%）
- 18:00 ☆ 7月ユーロ圏消費者物価指数（HICP）速報値（予想：前年比1.1%）
- 18:00 ☆ 7月ユーロ圏 HICP コア速報値（予想：前年比1.0%）
- 20:00 ◇ MBA 住宅ローン申請指数
- 20:00 ◎ 4-6月期メキシコ GDP 速報値（予想：前期比▲0.2%/前年比▲0.3%）
- 21:00 ◎ 6月南アフリカ貿易収支（予想：42億ランドの黒字）
- 21:15 ☆ 7月 ADP 全米雇用報告（予想：15.0万人）
- 21:30 ☆ 4-6月期米雇用コスト指数（予想：前期比0.7%）
- 21:30 ☆ 5月カナダ国内総生産（GDP、予想：前月比0.1%/前年比1.3%）
- 21:30 ◇ 6月カナダ鉱工業製品価格（予想：前月比▲0.1%）
- 21:30 ◇ 6月カナダ原料価格指数（予想：前月比▲3.0%）
- 22:45 ◎ 7月米シカゴ購買部協会景気指数（予想：50.5）
- 23:30 ◇ EIA 週間在庫統計
- 1日 03:00 ☆ 米連邦公開市場委員会（FOMC）、終了後政策金利発表（予想：2.00-2.25%に引き下げ）
- 1日 03:30 ☆ パウエル米連邦準備理事会（FRB）議長、定例記者会見
- 未定 ☆ ブラジル中銀、政策金利発表（予想：6.25%に引き下げ）
- 米財務省 3年、10年、30年債入札条件
- 英中銀金融政策委員会（MPC、1日まで）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

30日 11:58 日銀声明

「当分の間、少なくとも2020年春頃まで極めて低い長短金利水準を維持」

「ETF・REIT、市場の状況に応じて買入額が上下に変動し得る方針を維持」

「物価モメンタムが損なわれる恐れ高まれば躊躇なく追加緩和措置を講じる」

「政策金利のフォワードガイダンス維持に原田委員、片岡委員が反対」

30日 15:35 黒田日銀総裁

「国内経済の先行きは当面、海外減速の影響を受けるも緩やかに拡大」

「物価上昇のモメンタム損なわれれば躊躇なく追加緩和」

「強力な緩和を粘り強く続けることが重要」

「海外経済の下振れリスクは大きい」

「消費増税は前回引き上げ時に比べて影響が小さいと考えている」

「追加緩和、時間的にすぐとは必ずしも示していない」

「足もとでモメンタムが失われる恐れが高まっているわけではない」

「欧米の利下げが適切に行われれば日本経済にはプラス」

「当面の間、フォワードガイダンスを変更する必要はない」

「現状、リバーサルレートになっているとは思わない」

「マイナス金利引き下げは片岡委員の意見」

「躊躇なくの文言は従来よりも金融緩和に向けて前向きになったと言える」

「マイナス金利、追加緩和手段の1つではある」

30日 16:04 仏農業・食料相

「トランプ大統領による仏産ワインへの関税発言、とてもばかげている」

30日 18:26 習・中国国家主席

「中国経済の長期的なポジティブトレンドに変化なし」

「現在の中国経済の状況を誰もが認めていることを臨む」

30日 18:57 中国共産党

「効果的な措置により通商問題に取り組む」

「金融政策については緩和・引き締めバランスをとる」

「中国経済は下方向の圧力が増している」

30日 19:05 アルバイラク・トルコ財務相

「9月に新たな経済プログラムを公表する」

「今年のトルコはポジティブな成長を残し、目標に近づくだろう」

「経済活動の正常化は2020年もさらに強く継続するだろう」

30日 20:22 トランプ米大統領

「我々は中国と協議しているが、彼らはいつも最終的に自分達の利益のために取引を変更する」

「中国との問題は、彼らが約束を果たさないことだ」

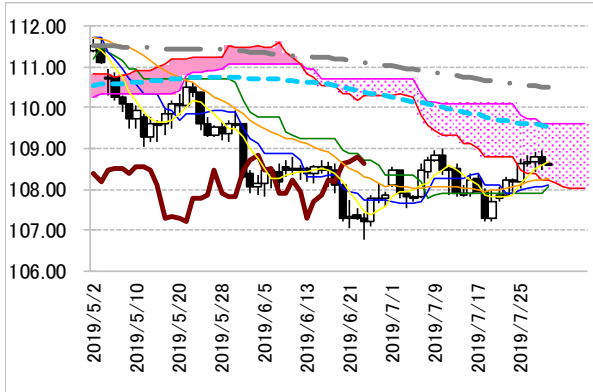
「私が選挙に勝てば、中国は今交渉しているものよりもさらに厳しいものになるだろう」

31日 03:08

「習・中国国家主席と最近話をした」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

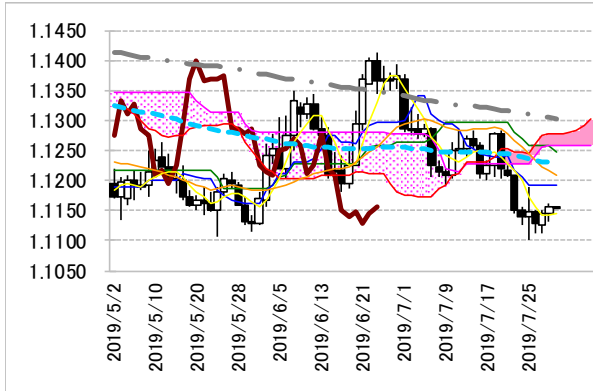


<ドル円=雲の下限を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の中で推移していることで、買いシグナルが優勢な展開。ネック・ライン 108.99 円を上抜けた場合、ダブル・ボトム (106.78 円・107.21 円) が完成するが、高値圏での抱き線で反落の可能性が示唆されている。

本日は、雲の下限を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下回った場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	109.93(5/30 高値)
レジスタンス 1	109.59(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	108.61
サポート 1	108.23(日足一目均衡表・雲の下限)

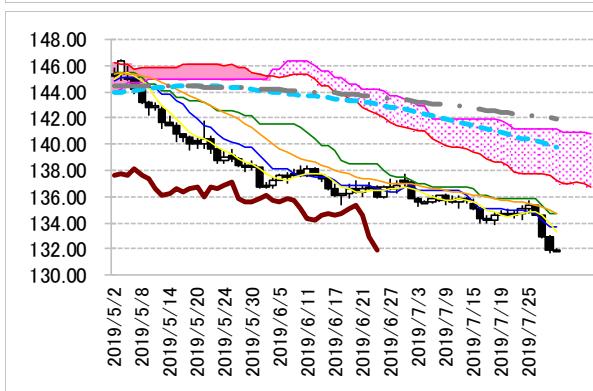


<ユーロドル=7/25 安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。しかし、底値圏での孕み線、2手連続陽線により反発の可能性が示唆されている。

本日は、7月25日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1192(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1155
サポート 1	1.1102(7/25 安値)

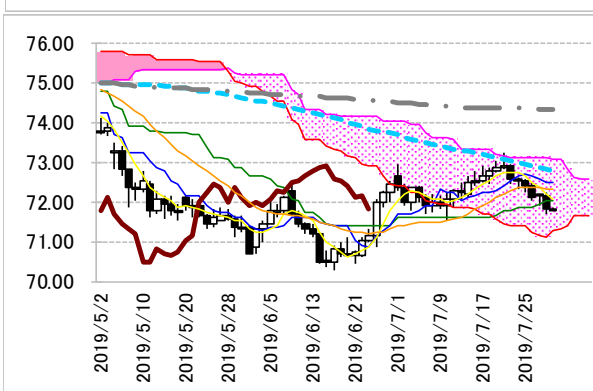


<ポンド円=転換線を抵抗に売りスタンス>

陰線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。3手連続陰線で続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	133.64(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	131.98
サポート 1	131.13(7/18-25の上昇幅の下方 1.5 倍返し)



<NZドル円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の中で推移しているものの、一目・転換線を下回って引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。7月22日の寄り同事線、6手連続陰線により、続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。雲の下限を下抜けた場合は、追撃売り。

レジスタンス 1	72.47(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	71.82
サポート 1	71.29(日足一目均衡表・雲の下限)

